

## ドミニカ野球から学んだこと ～日本の当たり前をもう一度見直してみたい～

帰りの飛行機で赤ん坊を抱っこしている1人の外国人と出会った。私自身まだ小さな子どもを持つ父親として、その抱っこする姿に妙に親近感を覚えたので、声をかけた。

カナダ人のダンカンが日本人の奥さんをもらい、4人の子どもたちを日本で育てている。高校生の時から日本に留学し、その後も日本で働いている。私と同年の36歳である。



自分のことを「私は日本人だ」と自信を持って言うところがとても素敵であり、また日本への大きな愛情を感じた。私が日本で高校の教員をやっていることを知って、教育について熱く語ってくれたのが印象的だったので、紹介したい。

D:「私は自分を日本人だと思っているし、日本のことが大好きだ。だけど子どもたちが日本の幼稚園を卒業したらその後はインターナショナルスクールに入れるつもりだ。日本の小学校や中学校、高校に入って、子どもたちが部活をやったら、私たちがもっとも大事にしている家族の時間がなくなってしまうからだ。今回も夏休みを利用して1ヶ月間カナダに帰ってきたけど、日本の学校に入ったらあり得ないでしょ？日本人は人生で一番大事な家族との時間をどう考えてるんだ!？」

私: (正直返答に困ったが・・・)

「多くの日本人は部活をして育った。だから親も子どもに部活をして欲しいと思っているし、仮に夏休みが全部休みになったら、逆に困る親がいる。親は子どもが夏休みの間も仕事をしているからね。」

D:「今の日本人の働き方では、いい仕事ができないんじゃないか？」

→おっしゃる通り

D:「私は子どもが生まれた時は、会社に行かなくてもいい時は行かないようにしている。家で出来る仕事は家でして、会社に行く分の時間を子育てや妻をサポートする時間にあてているよ。」

私:「え!? 何時に会社に行ってもいいの?」

D:「そうだよ。」

私:「そしたらサボる人がいるんじゃない?」

D:「それが日本人の発想だ! 仕事はいかにサボるか! じゃないだろう。会社にいようと、家にいようと、その場所で最大限の成果を出す、それが仕事だろう。みんなが最大限の成果を出すために会社の仕組みがあって、社員をサボらせないために会社の仕組みがあるんじゃないだろ。」

ダンカンとの2時間近くの会話はとても面白かった。日本人との考え方との違いやもっとこうした方がいい、ということを経験者から教えてくれた。そして今回ドミニカで学んだことと結びつくことが多くあった。

ありがとう。ダンカン

最後に

日本に帰ってきて、多くの人とドミニカについての話をした。  
そして自分の中では1つの結論がでた。

今まで私がやってきたことは勝負事としての野球であって、スポーツとしての野球ではない、ということだ。

スポーツか勝負事か、ということである。

スポーツの本来の意義は「より速く、より高く、より遠くへ」ということを求めるなかで、よりよい人間性を築くことである。

それが勝つことに最も重きがおかれると（=勝負事）、スポーツとしての大事な精神が失われてしまうのではないか。

これからの子どもたちに、スポーツを通して大事なことを教えていくのか。

勝負事を通して大事なことを教えていくのか。

指導者によってその割合は変われど、大人が勝負事に全てをかけてしまうと、スポーツによって育つはずだった子どもたちの未来を奪うことになるかもしれない。

## ドミニカの日曜日

子どもたちが午前中に練習をして、大人たちが午後からソフトボールを楽しんでいた。

子どもたちはそんな親たちの姿を見ているから、また明日も楽しく野球をするのだろう。



報告者 関井 徹

最後まで読んで下さった皆様、大変ありがとうございました。もしこの報告書を読んで、今後につながるような意見やお考えがあれば、是非教えて下さい。これからの子どもたちがよりよい環境で育てるようにみなさんの力で時代を切り開きましょう。